

淡路

今できること 淡路JICの思い

淡路青年会議所では毎年、新たな社会開発活動を掲げて実行しています。今年度は淡路島3市と共催で、7月17と18の両日、島民討議会を開きます。無作為で2千人の市民に呼びかけて淡路島のまちづくりについて語ってもらい、会議での結論を行政に提案しようというものです。無作為による市民参加型会議は、これまでに東京JICなどが行っていますが、複数の行政との共催という形では全国初です。

無作為にするのは、これまで行政に届けられなかった市民の生の声を行政に届けるためです。市民参加型会議はこれまで開かれていますが、声の大きい人の意見があたかも市民を代表する意見かのようになって行政に届いています。本日の市民の声を行政に届けることが、今後の淡路島のまちづくりにつながるものと確信しています。会議の開催にあたり、実行委員会を立ち上げ、具体的に取り上げる議論のテーマについて話し合います。今月下旬に第1回会合を開き、年9回開く予

淡路青年会議所 原田啓行・社会開発委員長 (34)



「島民討議会」で島のまちづくりを

定です。無作為で抽出しますので、どのような人が集まるかはわかりませんが、会議の趣旨を書いた手紙を5月中に送り、趣旨に賛同した市民に参加してもらいます。

淡路島の今後を考える場合、根底にあるのは雇用だと思えます。淡路島の人口が減っていくなか、雇用を創出

していかないと淡路島に明日はありません。私の社業は建築業なので、それが特に切実なほど感じます。建築業は住んでくれる人がいて成り立つ業界です。私は入社したばかりのときは、父から「衣食住がなくなる」とはならない。がんばればがんばるほどいいことがある」といわれました。たし

かに阪神大震災前にはがんばれば売りが上がり、従業員の賃上げも上がりました。従業員は一生懸命に働くようになり、さらに業績が上がりました。しかし、10年ほど前から建築業界の業績は落ち込むようになり、雇用も少なくなっています。建築業界としては淡

路島が住環境のよい所であることをもっとアピールすべきだと思います。実際、淡路島で暮らすと、都会のような窮屈な生活をしないで済みますし、地域住民とのつながりなどコミュニティもある上、自然も豊富に残っています。こうした淡路島の魅力をもっと発信していかねばなりません。もちろん、働く場所がなければ淡路島に住みたくても住めません。私としては雇用が創出できるように努力しようと思っていますし、少なくとも家を建てられるような環境づくりはしていきたいと思っています。いま、島全体が活気のない状態になっています。淡路JICとしては先を見越したビジョンを掲げ、具体的に実行し、地域が活気づくりに取り組んでいきます。

-
- ニュースのご連絡は
洲本支局
〒656-0026
洲本市栄町2-2-15
(本間ビル2階)
0799(22)1450
FAX 0799(25)2125
- 姫路支局
〒670-0921
姫路市総町119
姫路不動産ビル内
079(224)5551
FAX 079(226)3191
駐在
加古川 079(421)7520
- 豊岡支局
〒668-0025
豊岡市幸町13-20
0796(22)6151
FAX 0796(29)2338
- 通信部
香住 0796(36)4499
- 神戸総局
〒650-0015
神戸市中央区
多田通4-1-5
078(351)1771
FAX 078(361)3001
- 阪神支局
〒662-0918
西宮市六福寺町9-11
0798(33)5881
FAX 0798(37)2477
- 通信部
尼崎 06(6421)2545
-